

# 同窓会会報

第9号

平成19年12月20日

発行

鹿児島大学教育学部  
同窓会

〒890-0065  
鹿児島市郡元1-20-6  
電話099-285-7711



## 新会長に池之迫副会長

### —第10回同窓会総会を開催—

平成十九年度第十回教育学部同窓会役員総会が八月五日(日)、教育学部会議室で開かれた。

総会は、会長、顧問の挨拶にはじまり、池之迫副会長が十八年度の会務を報告し、石神正明理

事を議長に選出し議事の審議が行われた。まず、十八年度決算報告、監査報告がなされ、会費納入率の向上策や積立金の適切な使途の為の展望等が審議され、承認された。

続いて十九年度事業計画、予算について審議され、別掲のように承認された。

続いて平成十年に制定された、数年間ほぼそのままにしてきた会則を実情に合うように改正することが提案され、審議、一部訂正の上、別掲のように決定した。また組織の強化のため「事務局」的な体勢の強化案が提案、承認された。続いて役員選出の審議に

入ったが、松元兼俊会長の辞意表明を受け、顧問・理事代表からなる後任人事審議委員会の審議も経て、池之迫副会長等が選出された。そして、新旧役員挨拶のあと、その他として、池之迫副会長から当面の課題が次のように提起された。

① 同窓会名簿をどのよう

に継続していけばよいか。作成時期、表記方法等検討して行かねばならない。

② 県内、県外の同窓生の活動状況の把握等、積極的に取り組んでいきたい。

③ 教育学部の学生の教員への採用について、同窓会として支援できる方策を講じることが必要ではないか。県外の同窓生へ呼びかけるなど。

④ 他学部との同窓会連合会への参加について。

最後に、松元会長に、池之迫副会長から感謝状が贈呈された。



## ご挨拶

同窓会会長

池之迫

静男

卒業生の主張

もしていただく

本年八月の教育学部同窓会総会において、松元兼俊副会長は、体調を理由に会長を辞任されることになりました。それにより副会長の私が、後任の会長として選出されました。もとより浅学非才の身には会長の

目前にした平成十年一月に、教育学部同窓会は発足しました。八学部の中で、最も歴史の浅い同窓会であり、同窓会の発足に当って、それまでの幾多の問題を抱えながら、教育学部第一回の卒業生の松元会長は、同

に終わることがないように、特に、後継者育成事業のために、大学側との連携を密にして、その支援をうけ、「鹿児島の教育を語る会」を発案され、すでに六回を重ねました。

これは主に在学生に教育に対する熱き思いを語ってほしい、同時に卒業生の主張もしていただく

る今、これまでの歩みをもとに、さらに会員の皆様のご協力を得て、同窓会の充実を努めなければなりません。まず、なによりも一万五千人以上の同窓会会員に、同窓会の存在意義と今日的な課題をとらえてもらいたいこととあります。大学の法人化に伴い、同窓会の支援が必要になっていきます。そのためには、各卒業年次別、各教科ごと、各地域別等の組織の強化をはかり、豊かな知的財産を持つ集団として、母校の発展はもとより、問題の山積する学校教育や地域社会の今日的な課題解決に寄与できる同窓会こそ二十一世紀にふさわしい同窓会の姿ではないでしょうか。

重責に耐えかねるといふ不安を抱きつつも会長を引き受けることになりました。これまでと同様、会員の皆様の絶大なご協力ご支援をいただきながら、これからの同窓会の発展・充実に努力いたします。どうぞよろしくお願いたします。

鹿児島大学が開学五十周年を

同窓会の発足に努力されました。発足以来十年、松元会長は「自分の土で咲こう」をモットーに、同窓会活動の先頭に立たれました。特筆すべきことの一つは、同窓会にとって必須のものである同窓会会員名簿作成手作りの事業を完成させられたことであり、また同窓会が単なる懇親会

このように、教育学部初代の松元会長は、すぐれた英知と卓越した指導力と先見性をもって、同窓会のあるべき姿の礎を築かれました。その功績を讃え、深く敬意を表するものであります。

同窓会発足十周年目を迎え

同窓会発足十周年目を迎え

## 平成19年度予算

## 平成18年度決算 (単位:円)

### 1. 収入の部

区分	予算額	備考
前年度繰越	14,210,490	会費内訳
会費	3,990,000	19年度新入生 284名
		18年度卒業生 65名
		既卒者 50名
		計 399名
		399名×10,000円=3,990,000円
合計	18,200,490	

### 2. 支出の部

区分	予算額	備考
事務経費	260,000	賃金160千円、印刷費・通信費・消耗品等100千円
会議費	250,000	理事会、総会経費
事業費	1,010,000	会報作成・発送費450千円、同窓会連合会分担金100千円、鹿児島県の教育を語る会150千円、大学祭共催企画180千円
総準備基金	3,500,000	総会開催準備基金(平成13~19年度分、各年度50万円積立)
記念事業用積立金	11,000,000	
予備費	2,180,490	
計	18,200,490	

### 1. 収入の部

区分	予算額	決算額	増減額	備考
前年度繰越	13,102,961	13,102,961	0	
会費	4,100,000	2,310,000	△1,790,000	新入生 2,160,000 卒業生 0 既卒者 150,000 計 2,310,000
預金利息		2,206	2,206	
合計	17,202,961	15,415,167	△1,787,794	

### 2. 支出の部

区分	予算額	決算額	増減額	備考
事務経費	480,000	531,235	△51,235	賃金、通信費、文具等
会議費	250,000	214,472	35,528	役員会、理事会、総会、同窓会連合会
事業費	1,000,000	458,970	541,030	会報作成費・発送費、鹿児島県の教育を語る会、語る会報告書、大学祭等プロジェクト経費
総準備基金	3,000,000	0	3,000,000	
記念事業用積立金	11,602,796	0	11,602,796	
予備費	870,165	0	870,165	
計	17,202,961	1,204,677	15,998,284	
次年度繰越		14,210,490		

## ◆平成19年度新役員

会長 池之迫静男  
副会長 石神正明  
幹事 竹之内則好

## ◆平成19年度事業計画

平成十九年四月二日  
新入生学部企画オリエンテーション

平成十九年四月六日  
鹿児島大学同窓会連合会総会

平成十九年六月二十七日  
役員会

平成十九年八月五日  
理事会(午前10時)

平成十九年八月五日  
平成十九年度総会(午後一時)

平成十九年十一月  
大学祭学部企画事業への参画

平成二十年三月  
平成二十年新入生への案内

平成十九年十一月二十八日  
鹿児島県の教育を語る会

平成十九年十二月二十日  
会報第九号の発行

平成二十年二月  
昭和三十七年、四十四年卒業生への案内

# 同窓会の歩み

- 平成九年三月二十一日 第一回同窓会設立談話会  
松元兼俊、木佐貫哲、有馬暢洋、犬馬場茂、池之迫静男、南孝一、松永郁男、島田俊秀、今林俊一、飯屋蘭昭彦
- 平成九年五月十日 第二回同窓会設立談話会
- 平成九年八月八日 第一回同窓会設立準備委員会
- 平成九年九月十二日 第二回同窓会設立準備委員会
- 平成九年九月二十七日 第三回同窓会設立準備委員会
- 平成九年十月十四日 第四回同窓会設立準備委員会
- 平成九年十一月八日 第五回同窓会設立準備委員会
- 平成九年十一月十六日 第一回同窓会設立発起人会
- 平成九年十二月九日 第六回同窓会設立準備委員会
- 平成十年一月九日 第七回同窓会設立準備委員会
- 平成十年一月二十一日 第八回同窓会設立準備委員会
- 平成十年一月二十五日 同窓会設立総会(八十七人)  
会長・松元兼俊  
副会長・木佐貫哲、池之迫静男  
理事、支部世話役、幹事、監事、学部教育協力者
- 平成十年三月三十一日 「同窓会事務局」設置
- 平成十年六月二十七日 第一回理事会
- 平成十一年一月二十日 同窓会会報 創刊号発行
- 平成十一年二月七日 第二回同窓会総会(五十一人)
- 平成十一年三月五日 同窓会名簿作成委員の委嘱
- 平成十一年五月十二日 第一回同窓会名簿作成委員会
- 平成十一年九月二十六日 第一回同窓会理事会
- 平成十二年三月五日 同窓会名簿発刊 B五判
- 平成十二年八月二十七日 第三回総会、会報第二号発行
- 平成十三年三月二十二日 同窓会名簿修正集発刊
- 平成十三年八月十九日 第四回総会
- 平成十三年十月五日 同窓会報第三号発行
- 平成十四年八月十八日 第五回総会
- 平成十四年十月五日 同窓会報第四号発行
- 平成十四年十二月六日 第一回「鹿児島島の教育を語る会」(学生十六人発表)、懇親会
- 平成十五年八月三日 第六回総会
- 平成十五年十一月十一日 同窓会会報第五号発行
- 平成十五年十一月二十八日 第二回「鹿児島島の教育を語る会」(学生十六人、卒業生二人発表)、懇親会
- 平成十六年七月二十五日 第七回総会
- 平成十六年十一月十一日 同窓会会報第六号発行
- 平成十六年十一月二十四日 第三回「鹿児島島の教育を語る会」(学生十六人、卒業生一人発表)、懇親会
- 平成十七年二月二十四日 第八回臨時役員総会
- 平成十七年八月二十八日 第八回同窓会総会
- 平成十八年八月十八日 第四回「鹿児島島の教育を語る会」(学生十六人、卒業生二人発表)、懇親会
- 平成十八年三月一日 同窓会報第七号発行
- 平成十八年八月六日 第九回同窓会総会
- 平成十八年十一月十日、十三日 大学祭学部企画事業参画
- 平成十八年十一月二十四日 第五回「鹿児島島の教育を語る会」(学生十六人、卒業生二人発表) 懇親会
- 平成十九年十二月二十日 同窓会会報第八号発行
- 平成十九年八月五日 第十回同窓会総会

- 同窓会会報第八号発行
- 平成十九年八月五日 第十回同窓会総会
- 会則一部改正 役員改選 する会(フォーラム)
- 平成十九年十一月二十八日 第六回「鹿児島島の教育を語る会」(フォーラム)
- 同窓会会報第九号発行

## 鹿児島大学教育学部同窓会会則

- 平成10年1月25日制定  
平成17年8月28日一部改正  
平成19年8月5日一部改正
- (名称) 本会は、鹿児島大学教育学部同窓会と称する。
- (目的) 本会は、会員相互の親睦、母校の発展と教育の振興を図ることを目的とする。
- (組織) 本会は、次の会員を以て組織する。
- 1 正会員 鹿児島大学教育学部卒業生、同修了生、同専攻科及び同大学院教育学研究科修了生
  - 2 準会員 鹿児島大学学生並びに大学院生
  - 3 特別会員 教育学部教職員及び旧教職員
- (本部、支部) 本会は本部を鹿児島大学教育学部内に置き、支部を必要な地に置くことができる。
- 第5条 本会は、第2条の目的を達成するため、原則として次の事業を行う。
- 1 会員名簿の発行
  - 2 会報の発行
  - 3 その他、本会の目的を達成するために必要な事業
- (役員) 本会に、次の役員を置く。ただし、名誉会長は該当がある場合のみ置くものとする。
- 会長 1名、副会長 若干名、名誉会長・顧問 若干名、理事 若干名、監事 2名、幹事 若干名、支部世話役 若干名、学年代表世話役 若干名
- (役員選任) 役員は、会員の中から選出し、総会において承認を得る。
- (1) 会長、副会長、監事、支部世話役、学年代表世話役は、理事会において選出する。
  - (2) 名誉会長、顧問、幹事は会長が委嘱する。
  - (3) 理事は総会において選出する。
  - (4) 名譽会長には会長職の経験者を、顧問には学部長及び学部長たりし者の中から会長が推薦し、理事会において選出する。
- 第6条 役員は、2年とし、再任を妨げない。
- (役員任期) 役員は、2年とし、再任を妨げない。
- (役員報酬) 役員は、本会を代表して会務を総理する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
  - 3 名譽会長及び顧問は、会長の諮問に応じて会議に出席し、意見を述べ得る。
  - 4 理事は理事会の構成員として、意見を述べ得る。
  - 5 監事は、会計の執行状況を監査する。
  - 6 幹事は、会務全般の事務を担当する。
  - 7 支部世話役は支部を代表し、かつ、会員相互の連絡調整を図る。
  - 8 学年代表世話役は、卒業年度ごとの各学年を代表し、かつ、会員相互の親睦を図る。
- (会議) 本会の会議は、総会、理事会、役員会とし、出席者は、平成10年2月1日より施行する。
- 1 第4条の支部は、鹿児島、揖宿、川辺、日置、川薩、出水、伊佐、始良、曾於、肝属、熊毛、大島の地区に置く。
  - 2 第5条第1項の会員名簿の発行、第2項の会報については、状況に応じて実費を徴収する。
- 本会則は、平成17年8月28日から施行する。
- 本会則は、平成19年8月5日から施行する。

## 辞任にあたって



前会長 松元兼俊

「あかあかと一本の道とほりたり たまきはまる我が命なりけり」(芥藤茂吉)

仏教詩人、坂本良民はこう言っております。「一本の道を行くということは、大変なことですよ。とくに晩年が大変なことだ。人間は晩年に決まると。」

この言葉は私には重い言葉です。晩年、食道がんの手術を受けて病床にあった作家の高見順は、ふと窓外を見ると激しい風雨の中を少年が新聞を配達している。その姿を見て、

「な」と。

ひたむきな新聞配達少年の姿に晩年の作家が「おれはなにを配達してきたか」と言っているのです。

省みて、今まで私は人に何を配達してきたかと自問しています。私事ながら、救急車で入院という仕儀に相成り、病室で

「なにかおれも配達しているつもりで、今日まで生きてきたのだが、人々の心になにかを配達するのがおれの仕事なのだ。この少年のようにひたむきに、おれはなにを配達しているだろうか」

一編の詩を書いてみます。

まず考えたことは同窓会の運営のことでした。この大事な時期だけに、まず会長職を辞任することだと思ひ、皆様にお願ひ申し上げました。かねてから出処進退は自ら決めるべきことだと考えていました。

私にとって教育学部は「心のふるさと」だと思っております。「ふるさと」といいます。「ふるさと」といい

ますと、昔ドイツの若者たちが自国の美しいコトバとして「ハイマート」を選んだことを思い出します。「ふるさと」というコトバには心の安らぎがあります。そこには、いつ帰っても「お前さんの座る場所はそのこにとつてあるよ」と

手を高く掲げて迎えてくれる人たちがいます。親しい人たちの笑顔があります。同窓会もそのようなものでありたいと願っています。

今年の総会で立派な役員方が選出されまして本当にありがたいことと慶んでおります。新役員を擁して同窓会がますます発展されることを祈念いたします。

私もおかげさまで何とか体調も整ってきました。これから教育学部同窓会員という絆につながり、お付き合ひいただきありがとうございます。

これまで賜りました皆様のご厚情に心から御礼申し上げます。

学部 全景

私たちは美しい未来を築くために 教育を学び教育の向上に邁進する



教育学部の今

教育学部長 河原 尚 武

同窓会の皆様には、日頃より本学部の教育・研究について一方ならぬご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。その一環として学校や教育行政の現場から四名のスタッフを迎え、実践的科目群の整備など、学部の教員養成機能の質的向上と高度化を目指し、力を合わせて取り組んでいく所です。また、長崎大、琉球大各教育学部と共に、

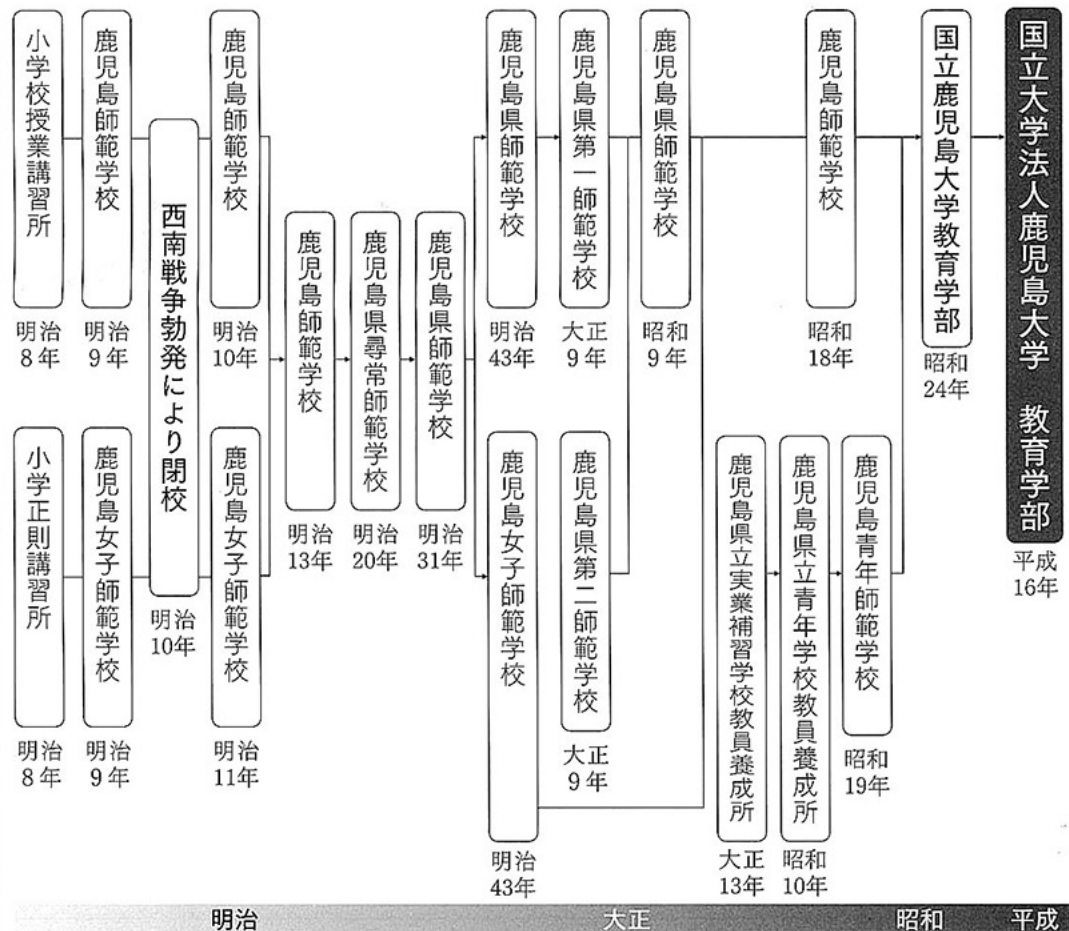
創立六十周年(二〇〇九)年が近づいていきますが、伝統を大切に

離島・へき地教育の革新(教員の指導力向上)を目指す事業が文部省特別経費に選定され、三大学連携による研究を推進しているほか、教員研修モデルカリキュラム開発事業など教育界の現実課題に貢献する取り組みも進んでおり、教育学部の社会的役割に関して新たな方向を打ち出そうとしています。

これに加え、本学部が提出した専門職大学院等教育推進プログラム「生きる教師力を育む特別支援学校教員養成」が文科省補助金の交付を受けたことも、今年度の大きな成果でした。今後二年間、琉球大や県教委との協働をもとに成果を挙げていきたいと思います。

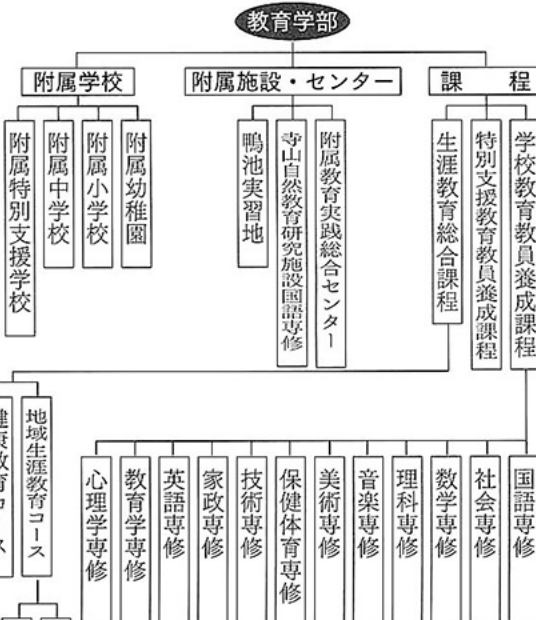
つ、確信を持つて次の時代に歩みだすためにも、今が正念場と自覚せねばなりません。教員就職率問題や学部・大学院の組織改革など緊要の課題も山積していますが、皆様の期待に応えることができるよう、学部を挙げて取り組んでまいります。

鹿児島大学教育学部沿革図



国立大学法人鹿児島大学 教育学部 平成16年

つ、確信を持つて次の時代に歩みだすためにも、今が正念場と自覚せねばなりません。教員就職率問題や学部・大学院の組織改革など緊要の課題も山積していますが、皆様の期待に応えることができるよう、学部を挙げて取り組んでまいります。



教育学部職員数(現員)

平成19年5月1日現在

Table with 10 columns: Department Name, Professor, Associate Professor, Lecturer, Assistant, Assistant, Lecturer, Total, Staff/Technical Staff, Total. Rows include Faculty of Education, Education Practice Center, etc.

学生在籍数

平成19年5月1日現在

Table with 11 columns: Faculty, Discipline/Course, Admission, 3-year admission, Current students (1-6 years), Total. Rows include Faculty of Education, various courses, etc.

学生の進路状況

Summary table of student career paths for Heisei 16, 17, and 18, showing total graduates and their destinations (teaching, industry, university, etc.).

# フォーラム「教職への道」 第6回 鹿児島の教育を語る会を開く



平成十九年十一月二十八日(水)、「鹿児島の教育を語る会」の第六回を開催した。当同窓会は、会員である教育学部の学生と連携し、それを支援することを活動の柱にうたっており、この行事はその事を体現したものである。

今回は、学生代表や教職に就いている会員の代表によるフォーラム(パネルディスカッション)を試みた。

会場は一二〇名を超える参加者で、熱気に満ちた意見発表、意見交換が行われた。

◇コーディネーター  
下野浩二(昭和五十三年卒 教育学部教育実践センター教授)

◇パネリスト  
藤崎さやか(教育学部国語専修三年)・増永忠佳(教育学部心理専修四年)・服部直樹(教育学部理科専修四年)・福元智香(教育学部音楽専修四年)・神野麻衣子(平成十九年三月卒 菱田中学校養護教諭)・有村和章(平成六年三月卒 鹿大附属小学校教諭)

「教職への道」を始める。学生パネラーの皆さんは、教職を目指したきっかけ、これまで教職に向けて頑張ってきたことなどを発表していただき、二名の先生方には、現場の状況やぜひ学生のうちに身に付けておいてほしいと強く思うことなどを発表していただけたらと思います。

また、会場の皆様のご意見も交えて論議を進めていきたいと思います。

## 意見発表

### 「教職への道」

藤崎さやか

教職になりたいと思ったのは、これまでに、すばらしい恩師にめぐりあったことと、子どもたちに相手をお願いすることのできる人になつてほしいと思つたことなどでした。

大学に入学する時も、子どもの気持ちに寄り添え、難局にめげない強い教師になろう、そのためにしっかりと勉強しようと思つたので、講義を受けるのが楽しいでした。

さらに、自分が教師に向いているかどうかを教育実習にしっかりと取り組んで考えてみようと思いましたが、子ども達と直接交わることのできる楽しさと、教師の責任の重さ



## 「教育学部にいる自分」

増永 忠佳

私が鹿児島大学教育学部に入学したのは、「心理学」を修めることと、高校の教員免許を取るのが目的だった。

教壇に立つことは考えていなかった。

それで、このような教員養成課程に來てしまったことを後悔し、心理学の授業には集中できなかったが教職の授業は身につかなかつたようである。

そのような私が、小学校実習をきっかけに、教職の道を選ぶ気持ちになつたのである。

子どもたちとの出会いが教職の素晴らしさを教えてくれた。

「実習に行く」と先生になりたくなる。という話は耳にしていたが、本当だった。

子どもたちの笑顔が教師になりたいというきっかけをつくってくれた。

小学校の教師も大変魅力を感じるが、私は高校の教師に対する憧れが強い。それは高校の担任の教師の影響が大き

い。

「与えることが多い人間になれる。」という言葉が私によく響いてくれた。それが、こうして教師になろうという気持ちにつながつたのかもしれない。

私もその先生のようになりた

い、子どもたちに少しでも多く

のことを伝えたい、与えたい。

教育学部の良さは、こうした教育実習がじっくりできることである。

教育実習で得たことを、教

職を目指す者も、そうでない

者も大切にしていって欲しい

と思う。

私は、大学院に進学するこ

とを考えている。それは、心理学をもっと深めるためと、教育について勉強しなおそうと考えるからである。

## 「これまでの体験と今後の抱負」

服部 直樹

私が教育学部理科に入学したのは、高校の先生が、適性に関してあきらめかけていた理系への進学の可能性を教え、導いてくれたからです。この先生のおかげで、自分のしたいことができ

ます。自分も、この先生のように悩んでいる子どもを導くことのできる教師になりたいと思ひ教育学部理科に入学したのでした。

しかし、入学当初は、その教師になりたいという気持ちは漠然としたものでした。

高校時代に私の人生を変えてくれたあの先生のように

になれるだろうか、自分が教師というものになつていいのだろうかなどと悩んでいました。

私は、教師の経験者が著した本を読み漁りました。著者のかたがたは、現職の教師に

対してと、これから教師を目指す人に対して思いを述べていました。教師というものは子どもを育てること

も大切な役割だとありま

した。このことから、私は一

つの教師像を持つことがで

きました。私は、後継者を育

てることのできるような教

師になりたいと思うようにな

りました。

そういう意味では、大学の

四年間は私にとって短かす

ぎました。講義や教育実習か

ら多くのことを学びました

が、まだ学び足りない思いです。

それで、大学院に進学することを考えています。免許を得て教師になつても自分の理想を追い求め、努力し続ける教師を目指したいです。

## 「教師への道のり」

福元 智香

私は小学校の時から勉強で困っている友達に相談に乗ることが好きでした。教師への第一歩はこの時から始まったのかもしれない。友達に感謝してくれると「先生っていいなあ。」と思ひ、こういうことが教師を目指すきっかけになつたと思ひます。

大学に入り、塾のアルバイトで講師をすることになりましたが、単に勉強を教えるだけではなく、話をしたり相談を聞いてあげたりと子どもと深く関わることもできました。

そして、子どもたちと関わり、その成長を援助できるようにどうすればよいかと、本を読んだり、自分を育ててくれた教師との関わりを思い出したり、大学の先生方に相談したりしました。

また、その子どもたちが学ぶ学校へも足を運びました。塾では見られない子どもたちの様々な場面での姿が私の心をとらえました。

そして、常に子どもの側にいてその姿を見届けられる教師は素敵だなあと考えました。

卒業式にも後ろの席で参列させてもらひ、子どもたちの成長の姿に感動しました。

決して楽な日ばかりではないと思ひますが、子どもたちと毎日のように関わりながら、そのよさを伸ばす、それ

に

は長い時間が必要だ、そういう時間を持てるのは教職に就くことだと強く考えました。

教師になつてどういう在り方がよいかは、未知数ですが、そういう目標を持つての大学四年間は充実していました。

これからは、自分の学んできた音楽を軸に子どもたちと関わっていききたいと思つています。

コーディネーター

学生諸君の発表が終わりでしたが、めざす教師像がひとりひとり明確でした。また、これから専門性や実践力を伸ばしたいなど、他いろいろな目標が発表されました。

次に君たちを教育現場で待つ先生方の意見を聞いてみましょう。

「教師への道」

神野麻衣子

現場にいつてみたら、初めてのことも多いでした。

学校は組織で動くのだということも忘れてはならないことでした。「保健の授業を通して、子どもたちに健康の大切さを伝えていきたい」などと

考えても、教育課程に位置付けられていないと、急にはできないということなどです。

現場の子どもたちは、素直で可愛いのですが、親や教師をよく見えています。

また、見たまま、感じたままを言動にし、そのことが知らず知らずのうちに相手を傷つけることに気づかないことがあります。

そういう時、教え導くのが教師の役目であり、先輩教師は毎日毎日子どもたちにそういう指導をされています。

また、学校には様々な要因からと思われる心の問題を抱

えた子どもも少なくありません。

次に、教師になる前に、大学時代にしておいてほしいことを述べてみます。

一つは、コミュニケーション能力を身につけておくことです。教師は、子どもたちに教科指導だけでなく、人として恥すべきことをしない人になる指導をしなくてはなりません。

二つ目は、ストレスに向きあえるようになっておくことです。学校の教育活動の中では、教師は言動に細心の配慮をしたり、どのように指導したらいいか悩む日々も少なくありません。

自分なりの発散方法を見つけておきましょう。

「教師への道」

有村 和章

学校現場はどういうところか述べてみる。

まず、学校は組織で動くところだ。目的の共有、リーダーシップとバックアップ体制、報告、連絡、相談が大切である。

つぎに、いろいろな子ども、親がいる。個に応じた指導が必要。子どもに寄り添おうとする共感的姿勢、家庭との連携、長い目でみた指導が大切。

同僚や上司と相談しながら進めていけばよい。

それから、授業で力をつけるのが教師。教師は授業で勝負できること。最も積極的な生徒指導は授業でできる。

各教科で何を子どもたちに

学ばせていくことが真のねらいか、人間形成の視点から考えたい。

次に、学生時代に身に付けておきたい資質・能力はまず、豊かなコミュニケーション能力。子どもだけが相手の仕事ではない。

上司、同僚、保護者、地域の方々等、様々な立場の人々と語り合い、考えを共有し合う必要がある。そのため、謙虚に聞き、学ぶ姿勢や相手を思う気持ち、自分の考えをしっかりと話す姿勢などがとても大切。

研究室で、部活で、サークル活動で、アルバイトで、地域活動で、自ら積極的、主体的にその機会をつくりだすこと。

それから、学生時代に、追求する姿勢と研究の仕方を身につけておきたい。教師としての指導力、授業力を高めるためには、経験もだが、日々の研修しかない。

卒業論文への取組が、研究の進め方や、結論を出すまでの考え方を学んだといえる。

自分で与えられた課題、自分で見つけた問題、それらにこだわる姿勢を大切にしたい。

授業創造は、クリエイティブな仕事。研究姿勢を忘れてはならない。専門性も是非磨いてほしい。

コーディネーター

ここに学校現場があるのかのような実感をもらえる、二人の先生の話をいただきました。

組織についてのとらえ方は異なりましたが、はじめは堅苦しく感じていたものが、支えてくれるものでもあるとつながるようです。

コミュニケーション能力の必要性も二人とも言われまし

たね。パネラー、会場から何かありませんか。

学校では、まずスタートに子どもたちと「きまり」をつくらんと聞きますが、どういふうにでしょうか。

有村和章

例えば、四月に学級のきまりを教師も加わつて、子どもが納得するものを一緒につくります。

コーディネーター

教師の評価・見とどけも必要ですね。

服部直樹

教師と子どもの間には一線があるとは。

神野麻衣子

担任と養護教諭では、対応の違いがあるのででしょうか。

有村和章

担任は毅然と指導すべき時はそうする必要はあるが、方法に工夫ができる。

パネリストの意見、発表並びにパネリスト間の質疑応答のあと、フロアーの発言が求められた。

石神正明副会長は「今、学校教育は地域との連携なしにはできません。

地域では運動会などへの呼びかけがあります。地域の一人としての方や活動をどう考えていますか」に、福元智香さんは、子ども会に入っていた体験から、地域の教育力を考えて、「地域とかけ離れないようにして、子どもたちを育てていきたい」と

思いを述べた。また、藤崎さやかさんは「教師になつたら積極的に関わっていこうと思えます」と、また、新規採用一年目の神野麻衣子さんは「学校の地域内に住んでいるので、ありがとうといわ



養護教諭である神野麻衣子さんに「保健室の先生と学級の担任との連携はどうされているか。また、子どもを通しての地域と学校との関係はどうされているか」の質問に、神野さんは「養護教諭として得たことは、一人で抱え込まず、学級担任に報告するように努めています」と答えた。

終わりに、各パネラーは、まとめの一言を、コーディネーターに求められて、藤崎さやかさんは「一人から先生になつてほしいと思われている人は、先生になつてほしい。私も自分自身をそう思えるようになりたい」と、増永忠佳さんは「先輩先生から、こんな資質を養つておくようにと、助言されたことが、身についた実感できるような今後努めたい」と決意を述べ、服部直樹さんは「先輩の『教師は授業で勝負』との提言を実行できるように努めたい」、福元智香さんは「先輩の先生の話聞き、早く学校現場に行きたいと思つたり、自分がやってきたことが、実際役立つだろうかと思うので、努力していきたい」と語り、在学生パネラーの実に前向きで、積極的な発言と態度に好感が持たれた。

現在、学校現場の教壇にある神野麻衣子さんは「子どもたちはすばらしい。子どもたちに与えるよりも、子どもたちから受ける者になりたい。大変だけど、教師になつてよかつたと思つてい

る。私も頑張るので、後輩のみなさんも後悔しないように頑張つてほしい」と力強いエールを後輩たちに送った。有村和章さんは「鹿児島県は、こんな教師を求めています！」(〇心身ともに健やかで、明朗活発な教師、〇高い専門性と幅広い教養をもつ教師、〇情熱と使命感にあふれ、教育的愛情をもつ教師、〇人間性豊かで的確なコミュニケーション能力をもつ教師)を紹介した。

長時間にわたつたフォーラムの終わりに、コーディネーターの下野浩二教授は、六名のパネラーのご苦労に感謝と敬意を表し、「『教師への道』ということであつたが、今日のキーワードは『かわり』ということであつたでしようか。子どもへ、同僚教師、その他の学校職員、保護者、地域のかたがたのかかわり。これを自分から求めていくことが大切だと思つています」とまとめた。

今回の「鹿児島大学の教育を語る会」は、これまでとは趣向を変えて、フォーラムにして、在学生の切実な課題である教師への道について具体的な考え方を語つてもらふことにした。課題の解決策は見出されなかつたかもしれないが、多くの在学生の皆さんの真剣な眼差しが、印象的であつた。

会の終了後、学部内食堂で、ノン・アルコールの懇親会を開き、学生と卒業生、教官を交えて親睦をはかつた。

# 同窓会 あっちこっち

ともに集い  
ともに語り合おう  
来一方  
行く未を  
同窓会とは  
そんなものか  
よろこび  
かなしみ  
ともに  
分かれ  
合

酌みかわす  
焼酒の  
一杯一杯また一杯  
同窓の絆  
深まりて  
また明日かくる



## 三二中全会の歩み 行 寛 島 鮫

昭和三十三年 鹿大教中等課程 入学生の同窓会を紹介しします。

昭和四十四年 十一月、第一回同窓会「三二中全会」が発足。目的は親睦と研修、会員七十八名、幹事は二名、事務局は幹事校

当初から昭和末期までは、教科指導、生徒指導、進路指導、部活動、地域などが話題となり、教師としての資質の向上に、多大な貢献を果たす。平成になり、PTA活動、学校経営など経営者としての話も多くなり、心強い同窓会であった。平成十一年退職後は、第二の仕事、人生の過ごし方、趣味、健康に関する内容の近況報告が増えました。



## 「鹿大31会」のアルバム

早水 秀久

昭和三十一年三月。私たちは教師の道を歩き始めた。「鹿大31会」と名づけた理由である。昭和三十一年を縦軸の始まりとして七十歳を過ぎた今でも「鹿大31会」は続いている。巣立つ時作成したアルバムは古くなっていく。しかし今も新しい気持ちでかき添えてくれる。伊敷の兵舎跡の教育学部。有馬学部長室で鹿大の先生方の集合写真撮影を依頼し快諾を得たことは今でも忘れられない。古い写真の中にひとりひとりの先生方の講義風景を思い出す。

三十代後半に作成した「31会の家族アルバム」は住所さがしに苦労した。でも家族の中で毎年十一月最終土曜日とする会則を決めました。

昭和六十二年事務局を自営業の会員の事務所に変更。平成十五年開催日を毎年十一月十五日頃、鹿児島中央駅近くの料理店に、世話役三名など話合う。

平成十八年幹事を教科順(国語、社会...)とし、慶弔規定と会費五千元と決めております。

第三十九回平成十九年度の三二中全会は十一月十四日(水)二十二名が出席して、盛大に開催いたしました。

生き生きとした同窓生の姿にお互いの幸せを感じたものだ。時は過ぎ「古稀同窓会」。台風近しの中に全国から集った。その様子は南日本新聞紙上で紹介された。当時病氣療養中であったY君は「31会に出席したい」と聞かなかつたという。記念写真の中央に座を占めていた彼の満足そうな顔。そして彼を奥さまに引き継ぐまで同窓生の世話。どの一つ一つにも思いやりと温かい心を感じた。

今は毎年、三月一日に「新生31会」と名づけ開催することにしていく。年末には「健康で一年を過ごせたことに感謝する会」と称し忘年会を開催している。今年十二月八日居酒屋に集合する。楽しみな会である。

## 三七会について

三二中全会は、教える喜び、生きる楽しさを語る楽しい同窓会であり、余生をいきいき

「三七会」と称する同窓会を毎年十一月頃開催しています。今年も、十一月十日(土)一八・〇〇より、中央駅前のホテルで、二十三名の出席のもとに実施し、盛会でした。「皆一回ずつは幹事をやろう!」と、毎回五、六名ずつが世話係に「抜擢」されて頑張っています。平成十七年度より会員制となり、年会費一、〇〇〇円を懇親会当日に戴き、欠席者は会計係へ振込んでもらうようにして会の運営にあたっています。

現在会員数八十六名です。学生時代は、貧困と粗食に耐

## 30年余りを過ぎて

水之浦 修



大学を卒業して三十二年が過ぎようとしている。今回、同窓会長から学年や教科ごとの同窓会の現状について書くよう依頼を受けた。学年全体の同窓会は今

で実施しておらず、教科ごとの状況はわからないので電話での聞き取りを行った。結論から言えば、体育科を除きほとんどの教科では学年ごとの同窓会を実施していないとのことである。体育科では、これまで卒業十周年など不定期に実施してきたが前回より二年に一回の実施を決め、今年度は八月四日に四名の恩師を囲んで盛大に開催し、旧交を温めるとともに、一人一人が大きな力を得たことである。また、学年単位ではないが、美術では三年に一回程度美術科同窓会を実施し、理科や社会、音楽などでも研修会や諸コンクールの折に同級生や同世代が集まり懇親の場を設ける機会はあるとのことであった。

女子師範学校の同窓会総会であり最高齢は百一歳とのことである。同校は、西南戦争の前年の一八七六年(明治九年)に設立され所在地や名称を変えながら戦後の学制改革まで存続し、最後の新生入生は昭和二十六年に鹿児島大学教育学部として卒業したそうである。私たちは、こういった苦難を乗り越えられた先輩たちを引き継いでいるのである。奇しくも同会が高齢化のため最後の総会である聞き、胸に迫る思いであった。

一方、私たちの大学時代は高度成長期の真っただ中にあった。当時の新聞記事の見出しを拾うと、浅間山荘事件、上野動物園でパンダが初めて公開、パーソナル電卓が一万二千八百円で発売、ハイセイコーが十連覇、新ゲイム「オセロ」が発売、外国為替が変動相場制へ移行1ドル二百六十四円、江崎玲於奈ノーベル賞、巨人九連覇、小野田少尉救出、新幹線東京-博多間全線開通、県内では、新鹿児島空港が溝辺町にオープン、平川動物園開園、太陽国体の開催、産業道路開通などである。お金には困ることがあっても伸び伸びと学生時代を送ることができた。古き良き時代であった。

## 大迫 征人

えながら皆それぞれに苦勞してきただけに、同窓会ではいつも懐かしい思い出話に花が咲きます。「年々歳々花相似たり、歳々年々人同じからず」(劉延芝)、私ども三七会員も年々歳をとって相応に老けていくようですが、まだまだ元気できばつていこうと肩をたたき合っています。来年の同窓会を楽しみにしながら...

さて、本年十一月十六日にサンロイヤルホテルでの会合の折、かなりの年配の方々が腰を曲げながら卒業年度ごとに受付をしているのに興味をひかれた。聞くと、旧鹿児島ラム形式で、内容の充実した会になりました。○「同窓会 あっちこっち」で四学年の同窓会の様子を伝えてもらいます。○映画「北辰斜にさす

ところ」の鑑賞を、関東地方の卒業生約三百人に案内しました。○同窓会の事務局は電話099-1285-17721です。(鹿大教育学部内)(池)

## 編集後記

○「偽」の漢字が与えられた年も終わりです。○第六回「鹿児島」の教育を語る会」は、フォー